

第四期中期目標に対する 令和 3 年度の達成状況

人と自然の博物館では、平成 14 年度から「中期目標」と「措置」を設けています。中期目標はいわば博物館の行動の指針となる大項目であり、それぞれに達成を目指すべき目標値（指標）が設定しています。さらに中期目標各項目の下位項目として「措置」を設定し、博物館活動の活性化に資する取組を数値で把握するよう努めています。

＜これまでの中期目標＞

第 1 期中期目標 平成 14 年度（2002 年度）～18 年度（2006 年度）

第 2 期中期目標 平成 19 年度（2007 年度）～24 年度（2012 年度）

＊開館 20 周年にあたって策定した「ひとはく将来ビジョン」
を反映させるため期間を 1 年延長

第 3 期中期目標 平成 25 年度（2013 年度）～29 年度（2017 年度）

第 4 期中期目標 平成 30 年度（2018 年度）～令和 4 年度（2022 年度）

2021 年度は、第四期中期目標の期間中です。次ページ以降に、各目標とそれぞれの達成度について評価し、2022 年度への取り組みを記します。

1. 生涯学習支援

「演示」手法を用いることで、あらゆる世代の知的好奇心を刺激し、多くの県民に「生涯を通じて学び続ける場」を提供します。

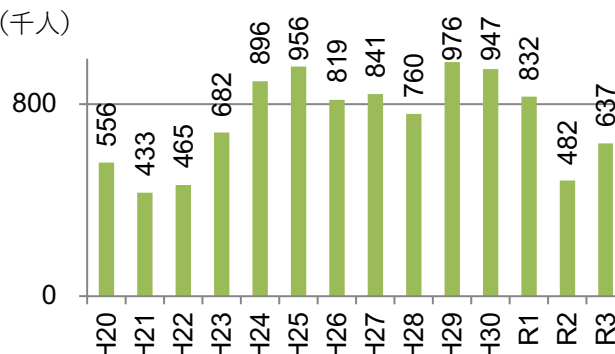
1 総利用者数

本館利用者数・連携施設利用者数・主催アウトリーチ事業・共催・協力事業の参加者数

(千人)

中期目標：800 千人/年

令和3年度：637 千人 (80%)

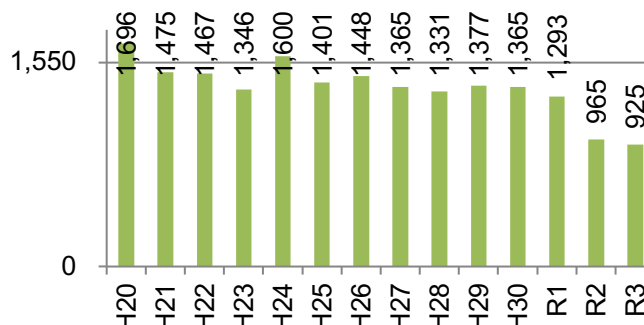


2 生涯学習プログラム

館主催プログラム（一般セミナー＋オープンセミナー＋特注セミナー）の実施件数

中期目標：1,550 件/年

令和3年度：925 件 (60%)



令和3年度の達成状況と自己評価

総利用者数は637千人、前年度比132.2%でした。このうち本館入館者は119千人、前年度比114.4%、約15千人の増加になりました。令和3年度は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置があったものの、昨年度より回復傾向にありました。また、館主催プログラム数は、925件、前年度比95.9%であり、今後もプログラムの更なる増加を目指します。

令和4年度の取組に向けて

ひとはく30周年を迎えるにあたり、来館者にとって魅力ある企画展、セミナーを重点的に開催し、行動し、思索する博物館として社会のニーズに対応した新たな博物館の在り方を検討します。

また、広報活動のさらなる拡充、デジタルコンテンツや館主催プログラム等の博物館の魅力を積極的に発信します。キャラバン・主催アウトリーチ事業については、体験し、探究するおもしろさを伝える工夫を行い、更なる充実を図ります。

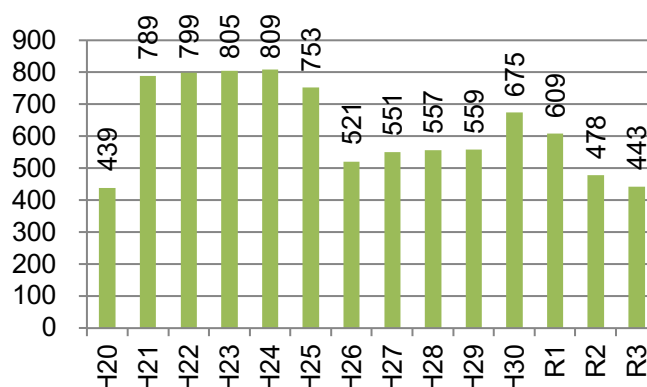
2. 人材育成と活躍の場の整備

「担い手」の成長を支援し、活躍する「舞台」を提供します。

1 担い手の登録者数

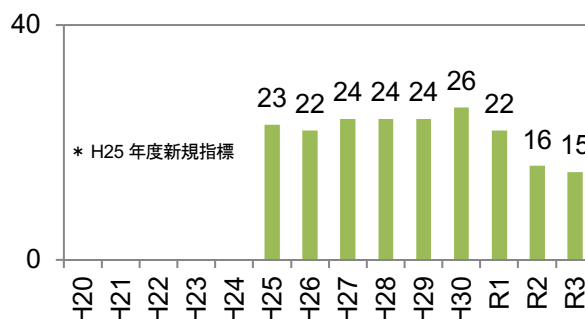
地域研究員、連携活動グループ、発掘・剖出ボランティアの登録者数

中期目標：650人
令和3年度：443人(68%)



2 連携活動グループ登録団体数

中期目標：40団体(R4まで)
令和3年度：15団体(38%)



令和3年度の達成状況と自己評価

担い手の登録者数、連携活動グループ登録団体数共に、平成30年から減少傾向にあります。登録者、登録グループは、セミナー、観察会等の実施、共生のひろばでの発表など、ひとはくを活用した充実した内容を展開しています。現在の活動を活性化させるためにも新たな仲間づくりは、重要といえます。長く運用してきた登録システムやひとはく研究員との連携内容などについての課題、新たにひとはくと連携したいと考える人々をどのように発掘し、交流を深めるかといった方策などを検討したいと考えます。

令和4年度の取組に向けて

新たなグループ等の発掘には、新たなアウトリーチ事業の展開が必要と考えます。より地域に密着したアウトリーチ事業のしくみを形成するために様々な形のアウトリーチ事業に挑戦します。

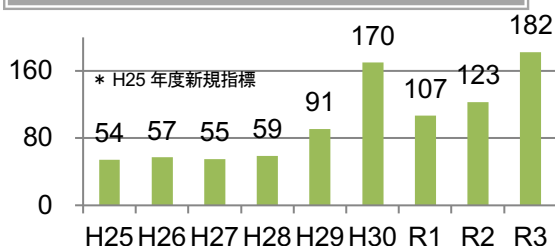
3. 連携・アウトリーチ活動

多様な主体と連携し、全県的に事業を展開します。

1 アウトリーチ事業

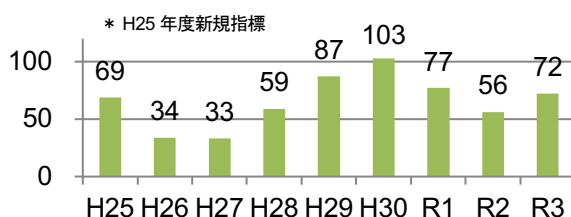
1-1. 主催アウトリーチ事業実施件数

中期目標：80件/年
令和3年度：182件 (228%)



1-2. ゆめはく稼働日数

中期目標：50日/年
令和3年度：72日 (144%)

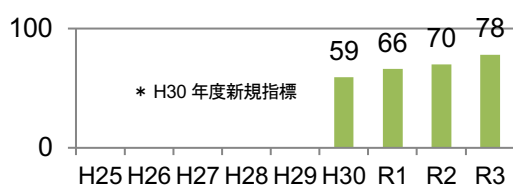


1 アウトリーチ事業

1-3. 地域展開度

県内の旧市町区数に対する主催アウトリーチ事業実施市町区数の比率

中期目標：100% (R4まで)
令和3年度：78%

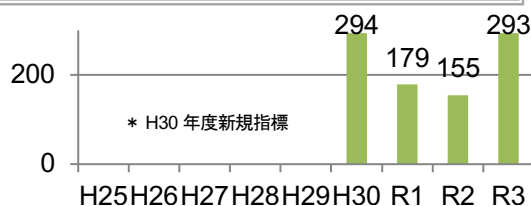


2 多様な主体との連携事業

2-1. 連携事業実施件数

主催アウトリーチ、主催・共催事業、協力事業、館内連携事業件数の合計

中期目標：200件/年
令和3年度：293件 (147%)



令和3年度の達成状況と自己評価

アウトリーチ事業については、実施件数、ゆめはく稼働日数ともに目標を大きく上回っています。コロナ禍が多少落ち着いたこともあり、キッズキャラバンや小学校キャラバンが順調に展開していることが大きな要因です。連携事業件数も目標を大きく上回ることができました。地域展開度は78%で、令和4年度に100%をめざすには、十分な展開とはいえません。但馬地域や西播磨地域など、この4年間でアウトリーチできていない地域にターゲットを絞る必要があります。

令和4年度取組に向けて

令和4年度もキッズキャラバン、小学校キャラバンを積極的に展開します。地域展開については、但馬地域へのアウトリーチについて担当を配置し、チームで取り組みます。

4-1. 研究活動

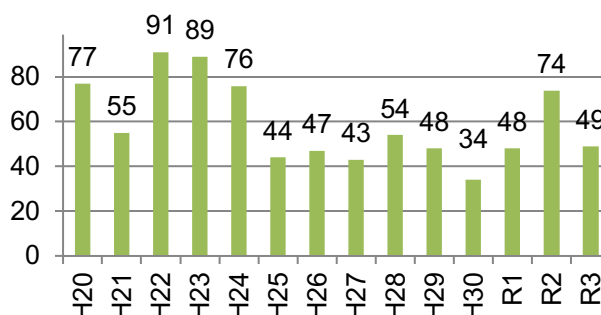
すべての活動の基礎となる研究を引き続き精力的に遂行し、成果を還元します。

1 学術論文・専門図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

中期目標：45本/年

令和3年度：49本 (109%)

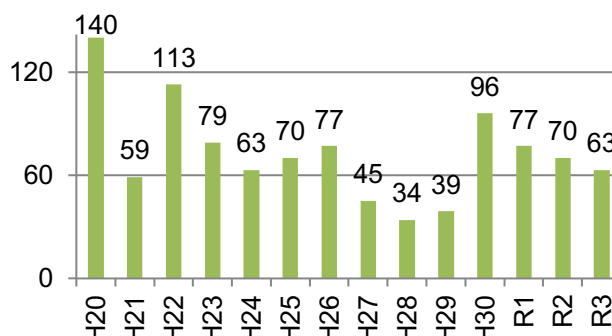


2 一般向け図書・その他著作数

一般向け図書、雑誌・新聞等の著作数

中期目標：60本/年

令和3年度：63本 (105%)



令和3年度の達成状況と自己評価

各指標とも、目標値を超える実績を達成しました。しかし内訳をみると、筆頭著者や単著の学術論文が全体の半分以上と少なく、独自な研究をさらに促進させることが求められます。一方、一般向け図書等の数は、HP等の電子媒体での成果を評価に入れ、さらに新聞等の広報誌での定期著作を増やすことにより、目標値を達成することができました。

令和4年度の実施に向けて

独自な研究をさらに促進するには、館内で「研究が推奨される」という雰囲気作りが重要です。このため、研究員セミナーの出席率を向上させる等の活動を通して、研究員の意識向上を図ります。一般向け図書等の数については、昨年度に引き続き、来館者にとってわかりやすい調査・研究に関連した読み物を提供するよう努めます。

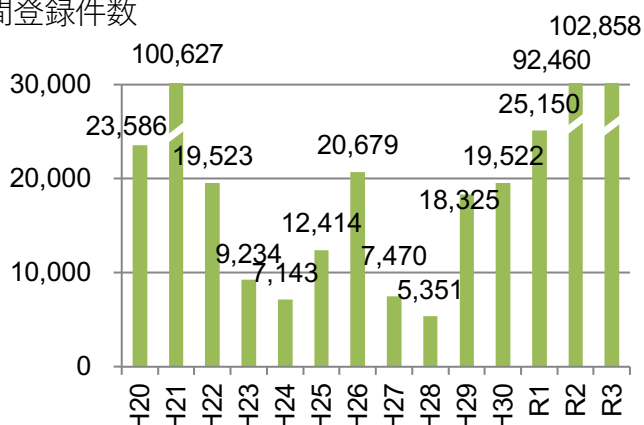
4-2. 資 料

特色ある質の高い資料を収集・整理し、利活用を推進します。

1 資料の登録点数

「ひとはく資料データベース」への年間登録件数

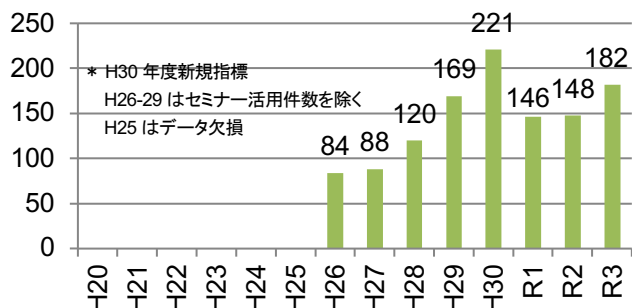
中 期 目 標： 10,000 点/年
令和 3 年度： **102,858 点** (1029%)



2 資料の利活用件数

研究活用件数、貸出件数、館内・館外展示件数、セミナー活用件数（H30 新規項目）、マルチメディア等データ提供件数の合計

中 期 目 標： 95 件/年
令和 3 年度： **182 件** (192%)



令和 3 年度の達成状況と自己評価

AI を活用した標本画像データからのラベル自動読み取り技術の開発などによって、博物館資料データベース登録件数、館外データベース(GBIF)への登録ともに、目標を大幅に上回る成果を達成しています。

令和 4 年度 of 取組に向けて

蓄積された標本資料の情報を広く公開していく環境整備を進めていきます。また、標本情報を自動で読み取る技術を多種多様な博物館資料に拡張していく技術開発も合わせて進めていきたいと考えています。さらには、現在、準備が進められている新収蔵庫建設に向けて、新たな標本資料の活用手法についても検討を開始します。

目標と達成度

4-3. シンクタンク活動

研究・
シンクタンク
推進室

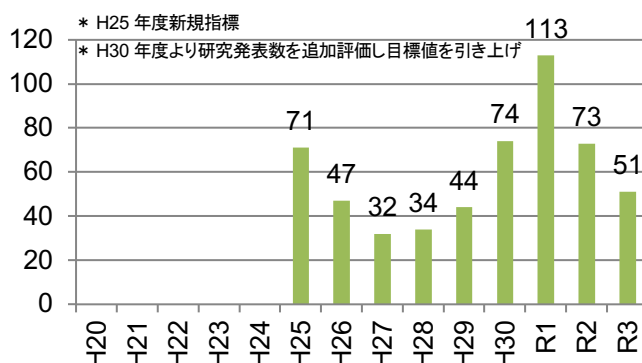
専門性を活かして地域づくりをリードします。

1 県政課題関連論文・著作・研究発表数

県内を対象とした学術論文、著作および研究発表の件数の合計

中期目標：80件/年

令和3年度：51本 (64%)

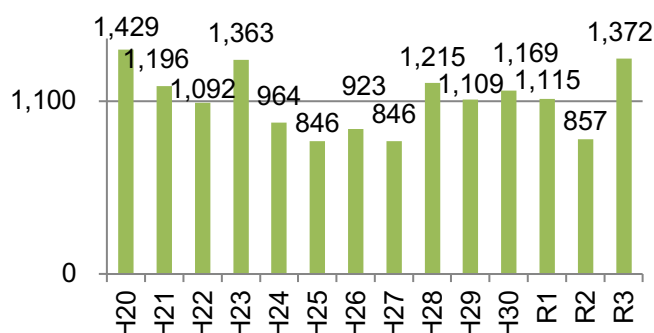


2 県政・市町行政に対する貢献度

国・県・市町関連の委員会参画数および相談件数の合計

中期目標：1,100件/年

令和3年度：1372件 (125%)



令和3年度の達成状況と自己評価

県政課題関連論文等の件数では、目標値を下回りました。これは、コロナ感染防止のため、前年度に県内での研究活動が制約された影響が出ているものと思われます。一方、県政・市町行政に対する貢献度は目標値を大きく上回りました。これは、コロナ感染防止のための規制が緩和され、社会活動が活発化するに従って、来館による相談件数が増えたためと考えられます。

令和4年度の実施に向けて

県内での研究活動を強化するとともに、引き続き来館による相談への対応や委員会への参加等を通して、県政・市町村行政に貢献していきます。

5. マーケティング・マネジメント

変化する社会状況に対応した効率的で健全な運営を行い、多くの県民に認知・利用される博物館を創出します。

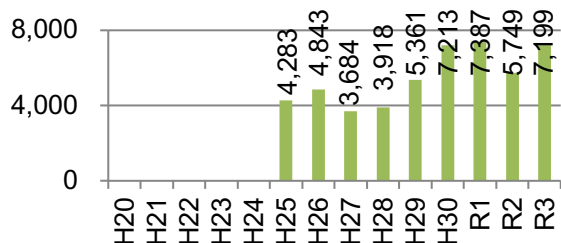
1 外部資金による事業推進

1-1. 外部資金獲得金額

研究助成金、受託研究費、事業活動助成金の合計金額

中期目標：4,000 万円

令和3年度：7,199 万円 (180%)



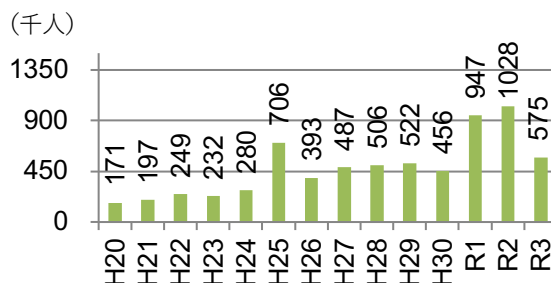
2 情報発信

2-1. HP アクセス件数

当館ホームページへのアクセス件数

中期目標：450 千件/年

令和3年度：575 千件 (128%)

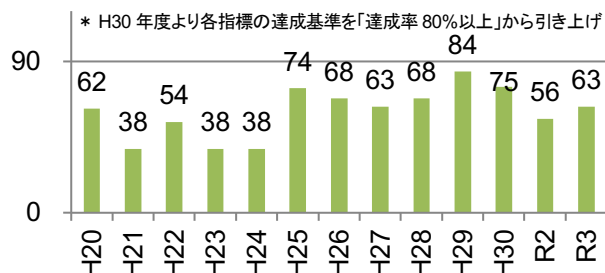


3 中期目標の達成度

当該指標以外の総指標数 16 に対する「達成率 90%以上の指標数」の比率

中期目標：90%

令和3年度：63% (70%)

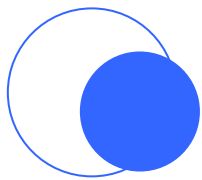


令和3年度の達成状況と自己評価

外部資金の獲得金額と当館ホームページへのアクセス件数はいずれも目標値を大きく上回りました。しかし、総指標数 16 に対する「達成率 90%以上の指標数」の比率は 63%であり、目標値である 90%に対する比率(達成度)は 70%と低調でした。これは新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。この影響がなければ、コロナ禍前と同様の実績をあげることができていたと考えられます。

令和4年度の取組に向けて

令和4年度は昨年度と同様に多くの事業を実施するほか、開館 30 周年を記念する事業を進めていく予定です。新型コロナウイルス感染症の影響により円滑な事業実施は困難であると考えられますが、できるだけ多くの実績をあげることができるよう職員一丸となって努力する方針です。



コレクションナリウム事業

収蔵資料の価値や魅力を皆様に伝える施設として、新収蔵庫棟コレクションナリウムを建設し、展示ギャラリー部分の造作を行っています。

■ コレクションナリウム準備室 令和3年度の主な事業

(1) 新収蔵庫棟（コレクションナリウム）の建設

令和3年度は新収蔵庫棟の建築工事が行われた。工事期間中、2週間に1度の施工業者、営繕課・設備課との定例会に参加して工事の進捗状況を確認するとともに、床材や各部屋のコンセント位置等、詳細部分の仕様検討及び決定を都度行った。また博物館が発注した新収蔵庫棟展示デザイン工事、展示工事の進行管理を行った。

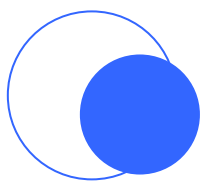
平行して、

- ・新収蔵庫棟ワークルールの運用について、経営戦略会議にて諮問した。
- ・1階展示ギャラリーの展示制作者を決定し、資料収集の価値と重要性を説明するインフォグラフィックスの考案を依頼した。
- ・11月に職員向け内覧会を開催し、館職員、特に1階展示ギャラリーの展示制作関係者やフロアスタッフ等に新収蔵庫棟完成時のイメージを共有した。
- ・新収蔵庫棟建設に伴い変更になる館外サイン計画について検討し、経営戦略会議にて諮問した。
- ・新収蔵庫棟開館後の人員配置、団体バスの運用計画、及び新収蔵庫棟を使用した今後の事業計画について関連課室と共に検討した。
- ・建築工事の進捗状況をタイムラプスカメラで撮影し、逐次館 Facebook で報告した。
- ・三田市やフラワータウン各事業者と連携し、フラワータウン活性化について議論を行った。
- ・フラワータウン再生に向け、コレクションナリウム周辺の外部空間（エントランスホール・ひろば部分）の活用方法を検討した。



新収蔵庫棟 コレクションナリウム

(コレクションナリウム準備室 高野温子・赤澤宏樹・三橋弘宗・高田知紀・布野隆之・福本優・山崎健史)



タスクフォース事業

従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成 20 年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・サブリーダー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ 恐竜タスクフォース 令和 3 年度の主な事業

(1) 篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システムの構築

篠山層群から産出する化石の調査・研究をさらに推進し、その成果を活用するため、人材育成（発掘・剖出・普及教育）の体制を強化する。今後 10 年間で持続可能な人材育成循環システムの構築を目指す。最終的には、ボランティア人材の登録 100 名体制を目標に、将来的に持続可能な人材育成システムの基盤をつくる。その基盤づくりに向けて、以下の事業を実施した。

1-1. 人材育成

発掘（石割）ボランティア：市民参加型発掘を実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。新規登録人数は 14 名。総登録者数は 120 名（R.4.3 月現在）。これまでに行われた調査の参加者は延べ 1204 名。

剖出ボランティアの育成：恐竜ラボで受け入れ、剖出に携わるボランティア人材を育成している。新規登録人数は 3 名。総登録人数は 30 名（R.4.3 月現在）。これまでの参加者は延べ 727 名 2061 時間。

普及教育ボランティア：「ひととはく化石専門指導員」の認定制度を設け、普及教育に携わる人材の育成に取り組んでいる。新規登録者数は 4 名。総登録者数は 20 名。

1-2. 市民参加型発掘調査

川代トンネル岩砕を対象とした市民参加型発掘を 5 月にひととはく、10 月に県立丹波並木道中央公園で各 2 週間程度実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。調査日数は計 24 日間。参加登録者は 31 名。参加人延べ数は 103 名。

(2) 研究

丹波竜に代表される篠山層群産の脊椎動物化石の研究を中心に、国内外の大学・研究機関等と協働して推進し、将来の研究拠点形成を視野に、研究実績の蓄積や地域づくり活動支援の強化を進める。

- ・関連論文 2 件（Scientific Report, Cretaceous Research）
- ・研究発表 3 件（Society of Vertebrate Paleontology、日本古生物学会）
- ・記者発表 1 件「篠山層群より発掘されたトカゲ類化石の記載論文の出版、および臨時展示・報告会の実施について」（令和 3 年 11 月）

(3) 普及事業

恐竜化石等の調査や研究内容をセミナーの開催や展示等を通じて広く公開する。

3-1. 展示

- ・臨時展示「ヤマトサウルス・イザナギイ〜ハドロサウルス科の繁栄の鍵を握る恐竜〜」（5/12-7/11）
- ・臨時展示「篠山層群から発見された小さなモンスター」（R3 12/11- R4 3/27）
- ・その他展示 6 件（共催：洲本市立淡路文化史料館 1、協力：丹波市立丹波竜化石工房 2、イオンモール神戸北区 1、国営明石海峡公園 1、南あわじ地学の会 1）

3-2. 普及教育

各種セミナーとともに、体験型学習フェスタと称した学習事業を他機関（丹波の森公苑、篠山チルドレンミュージアム）と連携し実施した。

(4) 地域支援

平成 22 年度に締結した「篠山層群における恐竜・ほ乳類化石等に関する基本協定」に基づき、地域支援を展開している。平成 27 年度から丹波県民局が主導する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」事業が始動し、その活動を支援している。

4-1. 丹波竜フェスタの開催（協力）

丹波市が主催する丹波竜フェスタにて、「篠山層群の小さなモンスター」と題した講演会の講師を務めた(11/28)。参加者数 43 人（フェスタ来場者数 786 人）。

4-2. 各種事業への参画

・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム関連会議 3 回（8/6, 10/7, 10/27）

（恐竜タスクフォース 池田忠広・佐藤裕司・太田英利・三枝春生・加藤茂弘・半田久美子・久保田克博・生野賢司）

■ 展示更新タスクフォース 令和 3 年度の主な事業

(1) ひととはく将来ビジョン 2032（案）の検討

開館 30 周年以降の人と自然の博物館のあり方を検討するために、社会潮流や県政課題を調査すると共に、当館の 29 年間の活動実績を整理した。それらの情報に基づき、「5 つの博物館像」や、主要な 6 つの博物館活動（「生涯学習」、「担い手育成」、「アウトリーチ」、「シンクタンク」、「研究」、「標本・資料」）の方針をとりまとめ、これらを中核とする「ひととはく将来ビジョン 2032（案）」を作成した。今後、ひととはく将来ビジョン検討会を開催し、令和 4 年度に「ひととはく将来ビジョン 2032」を公表する予定である。

(2) えんがわミュージアム事業の実施

令和元年度に作成したインドアパーク・ミュージアム構想に係るソフト先行事業として、「えんがわミュージアム」を実施した。本事業は、公園緑地と隣接する博物館の縁側の空間（1 階ピロティ、ホワイエ周辺）に可変式の滞留空間を試行的・定期的に整備し、採集・観察道具の貸し出しや、緑地の自然・博物館資料を活用した参加型・体験型プログラム等を実施するもので、幅広い世代への自然体験や環境学習機会の提供、身近な自然や博物館利用に対する興味関心の喚起、博物館の体験型学習拠点および遊び・くつろぎ・交流の場としての機能拡充と発信などを目的とする。

（展示更新タスクフォース 布野隆之・大平和弘・石田弘明・黒田有寿茂・頼末武史・久保田克博・衛藤彬史）

■ Kids タスクフォース 令和 3 年度の主な事業

(1) ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）の実施

ひととはくでは兵庫県県政環境部環境政策課（現 環境部）と連携し、県内の全幼稚園・保育所・認定こども園等（約 1,500 園）を対象に乳幼児期のこどもたちへの環境体験機会の創出と環境体験が継続的に実施できる仕組みの構築を目指し「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）」を令和元年度より開始した。この事業の中核を担う専門人材として令和 3 年度、「こども環境体験コーディネーター」（2 名）及び「こども環境体験スタッフ」（1 名）の職種を新たに設置し以下の事業を展開した。

1－1．環境体験事業の実施

- ・しぜんたいけん（訪問タイプのプログラム）実施園数：88 園
研究員やこども環境体験コーディネーター、こども環境体験スタッフが園に出かけて、園庭や近隣公園等の動植物を用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。
- ・たいけんデビュー（訪問タイプのプログラム）実施園数：38 園
ひとはくスタッフのほか兵庫県環境部の職員が園に出かけて、ダンゴムシさがしなど、環境体験の導入的なプログラムをこどもたちへ提供。
- ・しぜんえんそく（遠足タイプのプログラム） 実施園数：33 園
県立公園等で園の遠足を受け入れ、ひとはくスタッフや各施設のスタッフが虫やどんぐりなどを用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。
- ・親子参加型のプログラム 実施回数：80 回
親子で参加する自然体験機会を提供。
- ・エコロコ BOX の貸し出し園数：35 園
拡大装置等の自然体験を支援するセット「エコロコ BOX」を貸出。

1－2．人材育成事業の実施

- ・エコスタディ☆フェスのオンライン開催 参加園数：9 園
現役の幼稚園教諭や保育士等へ園での自然体験実践につなげるための仲間づくりとノウハウを学ぶ機会を提供（オンライン開催）。
- ・園の先生向けの研修 参加園数：58 回
園の先生へ園庭や近隣公園の自然を活用するノウハウなどを提供。

1－3．コンテンツ開発

- ・自園プログラムの開発
各園での取り組みを促進するための冊子「植物あそび」の制作・配布など。
- ・ホームページやメーリングリストで配信
ネットワークを拡げるため、専用ウェブサイトや園の先生の会員メーリングリスト等で配信。

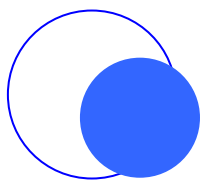
（2）Kids キャラバンの実施

移動博物館車「ゆめはく」（2tトラック）を活用してのキャラバン事業（アウトリーチ活動）として、幼稚園や保育所、認定こども園などを訪問し、昆虫標本の展示や、恐竜の頭骨レプリカと化石・鉱物標本の観察、拡大装置での生きもの等の観察、ひょうごの昆虫や丹波の恐竜化石のキューブパズルの4つのプログラムを行った。今年度は23 園で実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため予定していた3 園が中止となった。

（3）Kids サンデーの実施

月の第1日曜日を「Kids サンデー」と呼び、小さな子どもとその家族向けのプログラムを今年度は7 回（4/4、7/4、8/1、10/3、11/7、12/5、3/6）実施した。なお、5 月、6 月、9 月もそれぞれ実施予定にしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

（Kids タスクフォース 半田久美子・小舘誓治・八木 剛・大平和弘・高瀬優子・辰村絢・杉浦千加子）



プロジェクト

ひとはくでは、2002 年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。更に 2012 年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラクチャリングをフレキシブルに行うことができる仕組みが必要であり、2014 年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができます。構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。2021 年度は、下記 99 件のプロジェクトを展開しています。

■ 2021 年度のプロジェクト(計 100 件)

頌栄短期大学標本の登録・整理	頌栄短期大学標本は 25 万点の貴重な大コレクションである。新収蔵庫建設にあわせて博物館の植物コレクションと一体化し閲覧の便宜を図ると及びに、標本デジタル化を推進する。21 年度は標本引越し作業を実施する。
博物館国際交流事業の推進	フランスアペロン県ミクロポリス館やマレーシア国サバ大学熱帯保全研究所をはじめ、世界各国の博物館施設等の交流活動を推進し、海外博物館施設の先進事例等の収集に努める。
国際交流事業 高校生のための生き物体験ツアー in 台湾	台北市立動物園の全面協力のもと、台湾で高校生（日本人 20 名、台湾人 20 名）による生物調査を行い、成果を使った展示をひとはくで行う。2021 年度は海外渡航を実施せず、8 月 1 日に WEB 上で日台の学生に対して講義を行う形式とする。卒業生による発表も同時に行う。
キッピー山プロジェクト	三田市有馬富士自然学習センタープログラム運営事業の実施。ひとはくの機能拡張、新規事業開発に資する試行を含む。
鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた検討支援	鳴門海峡の渦潮の世界自然遺産登録に向けた学術的支援、及び枠組みづくり、体制づくり等の支援を行う。
うずしお科学館運営支援	リニューアルオープンした南あわじ市大鳴門協記念館内のうずしお科学館の運営計画策定や運営体制、ネットワークづくり等の支援を行う。
地域コミュニティと連携したため池法面等でのタクティカルプレイスメイキング	いなみ野ため池ミュージアムに位置付けられる東播地域のため池を事例に、地域内外のコミュニティづくりを通して、ため池法面等を活用したコミュニティガーデンの戦術的な空間整備・運営を試行する。
但馬牛博物館運営支援	リニューアルオープンした但馬牛博物館の博物館活動、運営・マネジメント計画・体制づくりに関する支援を行う。
ひょうごエコロプロジェクトの推進	乳幼児期のこどもたちへ環境学習の支援を行う「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（ひょうごエコロプロジェクト）」を推進する。県環境政策課、県内の幼稚園・保育所・認定子ども園、県立公園、関連大学等と連携しながら、園庭や公園等での自然体験機会の提供や、プログラム開発、人材育成、ネットワークづくりなどを県全域で展開する。
兵庫県における特定外来生物対策の実践型研究と政策提言及び人材育成の推進	ヒアリ、クビアカツヤカミキリ、ツメガエルなどの特定外来生物、要注意外来生物に指定されている動物を中心として対応し、侵入の原理と影響を研究活動を通じて解明し、社会的背景と実現可能な対策を含めた研究を行う。これらの成果は、環境省をはじめ行政機関に提案し、社会実装することを目的とする。また、ホームページや展示、シンポジウム等を通じて、行政等と連携して人材育成や普及教育を行う。
加東市との連携と環境学習事業への支援	協力協定に基づく環境学習事業への支援、とくに「加東市ノーベル大賞」の審査と講評を行う。その他、学校教育との連携による環境学習プログラム開発などを行う。

2017 年～2021 年までの展示計画 2 コレクション（収蔵）展示	新館建設あるいは改修・収蔵庫増築に向け、コレクション展示を年 1 回、夏季に実施する。
2017 年～2021 年までの展示計画 1 展示特別企画	展示特別企画はコレクション展と同じく大型の企画展で、年 1 回秋冬期に行われる。
ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト	ひとはくのハチ類コレクションはタイプ標本を含む日本・アジア各地の標本からなり、当館を特徴づけるコレクションになっている。更に、2015 年度には 4 万点に及ぶ日本産カリバチ・アナバチ全種オス・メス標本の寄贈を受けた（羽田コレクション）。本プロジェクトでは、当館のハチ類コレクションの整備と充実・活用を推進する。また、公開可能な標本データについては、当館 HP や GBIF（地球規模生物多様性情報機構）等で公開していく。
Kids サンデープロジェクト	月の第 1 日曜日に子ども向けあるいは家族向けのイベント等を行う「Kids サンデー」を実施する（年間 9 回程度を予定）。また児童館、幼稚園、高齢者大学等と連携しながらプログラム開発を行う。
ミュージアムキッズ！プロジェクト	こどもひかりプロジェクトの支援と連携を実施する。全国の様々な分野のミュージアムと共に、幼児～低学年向けプログラムの開発提供、ユーススタッフ（大学生）の共同育成、ジャーナルの刊行等を行う。
Kids キャラバン	幼稚園・保育所への「Kids キャラバン」をはじめ、文教施設や地域団体からの要望に応じ、展示や体験型プログラムのパッケージを、移動博物館車「ゆめはく」を活用して、博物館への来館が困難な地域へ届ける活動のコーディネートを行う。
共生のひろば	「創造と共生の舞台・兵庫で参画する皆さんが共演する生涯学習院」の推進のため、16 年間継続してきた担い手育成の中核事業であり、年間でもっとも多くの入館者数、参加者数を記録。ひとはく地域研究員や連携活動グループをはじめ、地域活動を行っている方々が、お互いの活動を知り、活動の質をあげ、新たな展開のヒントを得る場としての「交流の場づくり」を行う。昨年はオンラインで開催成功を収めたが、その経験を活かした開催する。
博物館研究紀要「人と自然 Humans and Nature」の編集・発行	博物館紀要の原稿募集・審査・編集・発行を行う（印刷は行わず、電子媒体のみとする）。
兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援	年 1 回程度の市町の生物多様性施策担当者を対象とした情報交換会を開催し、生物多様性施策担当者が博物館や近隣市町への相談や事例把握をしやすい環境を整え、そのことによって、地域戦略策定・推進に貢献する。また生物多様性地域戦略を策定した市町に対して委員等を派遣して、戦略推進に対するアドバイスをを行う。またこれから戦略を策定しようとする市町の相談を積極的に行うと及びに、戦略の策定の必要性を働きかける。
棚倉町里山再生・活用プロジェクト	福島県棚倉町で里山の保全・活用に向けた各種の取り組みを行う。
えんがわミュージアム	博物館の体験型学習拠点及び遊びの場、くつろぎの場、交流の場としての機能拡充と発信を主な目的として、公園緑地（深田公園）と隣接する博物館の緑側の空間（1 階ピロティ、ホワイエ周辺）に、誰でも利用可能な可変式の滞留空間を試行的・定期的に整備し、そこで採集・観察道具の貸し出しや、緑地の自然・博物館資料を活用した参加型・体験型プログラム等を実施する。
ジーンバンク事業の推進	生物多様性保全を目的として、絶滅危惧植物等の危険回避、緊急避難、系統保存、増殖及び種子保存を行う。また、生物多様性に配慮した植生・生態系の創出を目的として、地域性種苗を用いた公共用地・企業用地等における緑地形成支援を行う。また、これらジーンバンク事業の実現に必要な調査・研究、技術開発を進めるほか、ジーンファーム見学会等の実施を通じ環境学習・生涯学習支援を行う。
博物館情報システムの新たな機能に関する整備と調整	情報システム更新によって整備されたシステムの円滑な運用を図るために、館内各課との調整を図り、より扱いやすいシステムの整備開発、保守に努める。主には、HP の改訂、セミナー受講者システム、館内展示端末（4F）、館報データ等の集計、名簿管理について、従来ルールを引き継ぎ形で簡便化と自動化を図る。館員からの各種質問対応、ホームページの構成、入館者やセミナー受講者等の既存情報を活用したマーケティング分析資料の作成を行う。また、次期システム更新時の効果的な整備手法の開発を検討する。
体験型学習フェスタ	県内の各地域や地域に集う子供たちの自然科学や故郷への関心向上を目的に、恐竜・化石等をテーマとした学習と体験を組み合わせた集約型ワークショップを開催する。
With コロナ社会におけるひとはくの新たな価値探求プロジェクト	コロナ禍がひとはく来館者に与えた影響をアンケート調査によって明らかにする。更にその結果をふまえて、With コロナ社会におけるコンテンツや運営方針などを検討しながら、ひとはくの新たな価値を探究する。
地学系収蔵庫の資料整理の推進	地学系収蔵庫の収蔵資料について、資料整理とデータベースの構築を推進し、コレクションの管理と利活用促進を行う。
琉球列島を中心とした熱帯～温帯アジアの爬虫・両生類相の多様性と自然史に関する研究	琉球列島を中心に熱帯アジアから日本本土にかけての爬虫両・生類相の多様性・固有性・自然史をテーマに、その現状の把握、そして背景となる地史・環境履歴の解明を目指す。
ブータンの爬虫・両生類の多様性に関する調査研究	昨年に引き続き、長きにわたる鎖国政策の影響で知見の少ないブータン王国の爬虫・両生類相に関する調査・研究を進める。

生物多様性創出機構の解明	アリ擬態現象が鋳型となって創出されるアリ擬態クモ類の種多様性の調査・研究を行い、生物間関係が織りなす生物多様性創出維持機構を解明する。
管住生ハチ類を指標とする里山環境の保全研究	里地里山を生息環境とするハチ類の多様性や生態の調査・研究を行い、里山環境保全に貢献する。
昆虫標本の展示手法の研究	昆虫標本を展示活用する際に、多くの来館者に自然・生物の美しさを効果的に魅せる工夫の開発研究を行い、昆虫学や標本の重要性をより良く伝える手法の確立を目指す。
生物系標本庫（植物）の資料整理とデータの公開	生物系収蔵庫における植物標本の管理と利活用の促進をはかり、未収集コレクションの取得と整備につとめる。これらの資料をデータベース化して、公開可能な標本データについては、当館 HP や GBIF 等で公開していく。
シソ科アキギリ属の送粉者調査と繁殖干渉	日本産アキギリ属を例に、近縁種間でどの程度の繁殖干渉が起こっているかどうかを明らかにする。合わせて遺伝解析も実施する。
兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究	博物館活動の基盤となる資料収集の強化、及び県産の絶滅危惧種、希少種を対象とした繁殖様式、フェノロジー、系統解析等、保全に資する基礎生物学的研究を実施する。
植物標本デジタル化の促進	植物標本のデータ入力作業の省力化効率化を目指し、標本画像の取り込み、画像からラベルデータの自動抽出及び DB 入力の自動化を目指す。今年度は DB 入力ボランティアを募り、OCR 読み取りシステムのブラッシュアップを図る。
ミョウガの起源に関する研究	ミョウガは中国からの移入種とされてきたが、日本固有種である可能性が出てきた。分子系統解析と染色体分析により起源を明らかにする。
餌資源の分割によるハエトリグモ類の多様性創出と維持	ハエトリグモ類に見られる食性の多様性が、種の多様性に及ぼす影響を、安定同位体分析や系統解析によって明らかにする。
貝殻に住む矮小シクリッドが並行進化した遺伝機構の解明	タンガニイカ湖における潜水調査・資料採集、及び日本での分子解析を行うことにより、シクリッドの <i>Telmatochromis temporalis</i> 矮小型が並行進化した遺伝機構を解明する。
環境勾配に沿った外来フジツボ類の温度耐性と適応遺伝子変異に関する研究	日本沿岸域の外来フジツボ類を対象に、緯度・潮位勾配に沿った温度耐性及び中立・非中立 DNA マーカーの遺伝的多様性の勾配が存在するかどうかを資料採取と DNA 解析によって検証する。
海産付着動物の着底場所選択性に関わる遺伝的基盤の解明	幼生の着底場所選択性を変化させる分子基盤は未解明である。海産固着性生物の着底場所選択性の変化をもたらす分子メカニズムとして、発現量の調節による可塑的变化と、遺伝子の変異によって駆動される進化的変化に着目する。本研究ではフジツボ類を対象として、室内実験と遺伝子解析をととして幼生着底場所の選択性に関わる分子基盤の解明を目指す。
御影高校における博物館活用型の学習プログラム構築	県立御影高校の環境科学部及び課題研究やグループ学習の授業を通じて、六甲山のキノコに関する基礎研究を行い、その成果をもとに当館での展示会やキャラバン（御影クラス、森林植物園等）を開催する。今年度からは、担当教員が異動により交代したため、新たな実施形態等を模索する。
自然史標本の汎用化と収蔵技法の標準化と体系構築	自然史博物館の標本管理と保存、活用の技法は、1990 年以降、あるいはもっと以前の段階から殆ど進展していない。データ整備や収納、デジタル技術、薬品処理や保存科学の方法論は大きく進展しているが、これらの知見が反映されていない。本プロジェクトでは、最新の科学的な知見を取り入れて、新たな活用や効率的な整備方法について、現代様式での収蔵技法の体系を、全国の博物館ネットワークを通じて構築する。
館内の非効率で壊れた場所を地味にメンテするプロジェクト	館内には壊れたままで周辺に影響を及ぼす施設や建築要素、省エネ対策が必要な機器などが多数放置されている。特に収蔵庫棟の雨漏りやライトの省エネ化、看板サインの不整合などに適宜対応する。
「ドリームスタジオ・フェスタ」プロジェクト	NPO 法人人と自然の会が主催する「ドリームスタジオ・スペシャル」の開催を支援する。本事業は、集客を目的とする大型イベントではない。自然環境や標本を活用した参加型プログラムを提供することにより、来館者の好奇心を育むと共に、博物館に対する満足度の向上を図ることを目的とする。開催時間は 2 時間。来館者は 500 人以上。来館者全員が 1 つ以上のプログラムに参加できるよう準備を進める。
但馬イヌワシ・エイド・プロジェクト	但馬地域において絶滅危惧種であるイヌワシを保全すると共に、本種を頂点とする健全な生態系ピラミッドを、地域住民、NPO、行政等と連携して整備する。
実現ニッチの進化を説明する新たなモデル	系統的に小さなスケール（属内程度）で見られる実現ニッチ幅の多様性を、基本ニッチの進化からではなくて交雑を避けるための棲み分けという視点で説明する枠組みを構築する。特に数理モデル研究と文献調査を行う。
外来タンボポが在来タンボポを駆逐する機構の解明	外来タンボポが在来種カンサイタンボポを駆逐する機構を、とくに受粉に応じためしへの応答に注目して解明することを目指す。
ミツカンよかわビオトープ倶楽部支援	ミツカンよかわビオトープ倶楽部によるビオトープを活用した事業支援（ビオトープに関わる啓発・人づくり等）を行う。
尼崎 21 世紀の森構想の推進支援	兵庫県の重要施策の 1 つである尼崎 21 世紀の森構想の推進に向けて、新たな 10 年のキックオフから人材養成、制度設計に至る推進支援を包括的に行う。
三田市地域計画策定支援	三田市内のまちづくり協議会にて地域計画を策定するための、行政支援及び地域団体支援を行う。

兵庫県下の提供公園の実態把握と改善	自治体の大きな負担となっている提供公園について、兵庫県下の自治体における実態を把握し、改善方を提案する。
官民市民協働型の街路樹管理の提案	街路樹の官民市民協働型の管理に向けて、現状把握から各種主体の意向、街路樹の状況を把握し、改善方を提案する。
赤穂海浜公園の魅力アップ支援	県政課題である県立赤穂海浜公園の魅力アップに向けて、助言や事業協力を行う。
三田市野外焼却を通じた農住共存の検討	都市と農村が隣接する三田市での野外焼却を通じて、居住環境としての農業・農地のあり方を検討する。
宮塚公園を中心とした芦屋市中心市街地の活性化	リニューアルした宮塚公園のソフト展開、及び中心市街地のブランディングについて支援する。
神戸市・福田川流域における市民活動の支援	神戸市の須磨区から垂水区を流れる二級河川・福田川の流域において、福田川クリーンクラブやれいんぼうキッズといった市民団体の環境保全活動、環境教育活動を支援する。
神戸市・高塚山における市民活動の支援	神戸市西区に位置する高塚山において、市民団体「高塚山を愛する会」及び有志の地域住民が展開している高塚山内でのアクティビティ及び環境教育活動を、プロジェクトマネジメントの観点から支援する。
伊達神社を拠点とした防災コミュニティ形成の社会実験	和歌山市に鎮座する式内社・伊達（いたて）神社において、神社空間のコミュニティにおける新たな利活用方策と近隣地区の災害リスクマネジメントに向けた方策を見出すための社会実験を展開する。
バンドー神戸青少年科学館におけるビオトープの利活用	バンドー神戸青少年科学館玄関前に設置されたビオトープの環境管理についてのアドバイス、及びビオトープを活用した来館者向けのセミナーを実施する。
宮崎海岸浸食対策事業における市民・行政・専門家間の合意形成マネジメント	国土交通省宮崎河川国道事務所が直轄事業として進めている宮崎海岸浸食対策事業において、市民連携コーディネータとして、市民・行政・専門家の間の合意形成マネジメントを行う。具体的には、事業に関する意見交換を行う「市民談義所」のファシリテーション、及び効果検証委員会などの専門家会議における市民意見の報告を担う。
大学連携フィールドワーク塩屋	兵庫県立大学のフィールドワーク演習において、学生が神戸市垂水区の塩屋地区におけるまちづくり活動に参加し、現地のフィールドワークを行うと及び関係者からのヒアリングを実施する。そのうえで、塩屋のまちづくりに向けた具体的な方策を提案する。
神戸市・多井畑西地区の環境保全に向けた合意形成マネジメント	神戸市垂水区・須磨区にまたがる多井畑西地区は、貴重な里山環境が残存した市街化区域である。神戸市が都市型の里山としての保全・活用を目指すこのエリアのビジョン策定に向けた合意形成マネジメントを担う。
神戸市・塩屋地区のまちづくり	神戸市垂水区の塩屋地区では住民主体による様々なまちづくり活動が展開している。塩屋まちづくり推進会のメンバー及び各々のまちづくり活動のアドバイザーとして支援を行う。
明石市立図書館における妖怪と安全の研究室	あかし市民図書館及び明石市立西部図書館では、地域の子どもたちに向けた「研究室」プロジェクトを展開している。「妖怪と安全」をテーマに、地域の安全マップを作成する教室を展開する。
北播磨地域の魅力アップ支援	北播磨県民局の施策推進に協力しつつ、兵庫県地域創生戦略「地場産業を活かした若者・女性集積プロジェクト」と連携し、北播磨の地域資源を活用した地域づくりに取り組む。
有馬富士公園 人材育成	有馬富士公園をフィールドにして地域づくり支援や人材育成プログラムを実施する。
パークマネジメントの社会実装に向けた行政支援	有馬富士公園でのマネジメントの運用、企画等の支援、芦屋市「宮塚公園」、吹田市「千里南公園」でのパークマネジメント組織立ち上げ支援など具体的取り組みや、公園・パークマネジメント等に関する連続セミナーによる行政、民間との情報交換の場の運営を通じて、様々な規模でのパークマネジメントの社会実装に向けた行政の取り組みを支援する。
「そとはく」による、持続性のあるニュータウン再生への取り組み	博物館周辺の屋外空間を活用する「そとはく」での活動をきっかけに周辺事業者との事業連携を図り、ニュータウン再生のきっかけとなる取り組みを行う。
丹波地域の地域再生における人的資源の活用方策の検討	丹波地域における地域住民、及びUJIターナー者によるこれまでの取り組み事業及び、今後の地域再生への意識を把握し、地域再生に向けた人的ポテンシャルの活用方策を探り、UJIターナー者と地元住民との交流・連携プロジェクトの提案を行う。
西武庫公園再生支援	兵庫県から尼崎市に移管され、尼崎市緑の基本計画においてリーディングプロジェクトに位置づけられた西武庫公園において、地域住民によるネットワークの運営支援を行う。
古写真を中心とした環境系資料活用による地域支援	古写真による地域の原風景の抽出や地域マネジメントへの活用方策、収蔵資料展での展示公開やセミナー等への活用方策検討のほか、館内外における実践を通し、活用プログラムの開発を行う。
近畿・中国・四国のランドスケープ遺産インベントリーの作成	ランドスケープ遺産（次世代に残したい風景や優れた造園空間）の保全と継承を図ることを目的に、日本造園学会連携のもと、それらの記録収集・登録作業を進める。また、兵庫県版レッドリストの自然景観として公表するなど、県下の景観の学術的価値の顕在化に寄与すると及びに、館の資料収集・公開活用にも大いに貢献する。

養父市における中山間農業特区事業の効果検証	国家戦略特区の指定を受け、規制緩和をはじめとした企業による農業参入を促す養父市における事業評価を通じて、人口減少下における持続可能な農用地資源のマネジメントのあり方を検討し、提言する。
地域主体交通の立ち上げ、運営支援	日常的な移動が主に自家用車に依存する地域において、住民が主体となった送迎サービスの持続可能な運営手法を検討し、実装を支援する。
6次化を通じた在来種保全	在来種の青大豆である八鹿浅黄（ようかあさぎ）の加工・販売、体験提供を通じて、また移住者への職と住の一体的な支援を目指す中で、これからの都市農村共生のあり方を検討する。
ローカル・コモンズの持続的運営に向けたコミュニティ・ガバナンスの形成	異なる複数の地域資源を対象に、資源運営の補完的役割を果たす存在として期待されるコミュニティの形成過程における課題や要点を明らかにする。結果をふまえ、縮減社会において持続的な資源運営を可能にするコミュニティ・ガバナンスのあり方を考察する。
共助交通の運営における望ましいICTの機能と要件	住民主体で運営する送迎サービスを事例に、運営の省力化や効率化に資するテクノロジーの機能と要件を明らかにする。
北摂里山博物館構想の支援	「北摂里山博物館構想」の推進に向けた各種取り組みを支援し、北摂地域の生物多様性保全と地域振興を図る。具体的には、植物・植生の保全・管理手法の開発・普及、自治体への政策提言、自治体や市民団体、企業などの活動支援、児童生徒や地域住民の環境学習支援、生物多様性保全の担い手の育成などを行う。
三田市皿池湿原の保全	三田市の皿池湿原は兵庫県版レッドデータブックのAランクに指定されている。しかし、この湿原では様々な問題（遷移の進行に伴うヌマガヤ群落や木本群落の拡大、周辺部に広がる放置里山林の照葉樹林化など）が発生しており、今後の生物多様性の減少が懸念されている。三田市と連携してこの湿原の保全を図る。
たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全	たつの市鶏籠山の照葉樹林は兵庫県版レッドデータブックのBランクに指定されている。しかし、鶏籠山はシカの生息密度が非常に高く、シカの被害による照葉樹林の衰退が大きな問題となっている。林野庁と連携してこの樹林の保全を図る。
兵庫県における未確認植物群落の実態把握	兵庫県にはまだ調査がほとんど行われていない植物群落が数多く存在する。また、里山の管理放棄やシカの増加などに伴って、過去に例のない新たな群落が各地でみられるようになってきた。このような未確認群落の実態を把握するための調査を実施し、その成果を随時論文にまとめて公表する。
乾燥種子標本の収集・活用	開館当初から収集・保管してきた乾燥種子標本を今後も適切に保管すると共に、展示やセミナー、キャラバン事業などでの標本の活用を図る。また、収集活動の継続や寄贈の促進、他館との標本交換などを行うことで標本のさらなる充実化を図る。
都市公園と里山林の植物相の保全と活用	都市公園と里山林の植物相を明らかにし、貴重種の保全及び自然観察に有用な植物の活用やガイドの作成を行う。
丹波地域の貴重植物の探索と保全活動	丹波地域の貴重種を探索し、保護が必要な場合は保全策を講じ、一般公開などにより地域の魅力を村おこしにつなげる。
植生資料データベースの構築・公開	神戸大学発達科学部植生研究室（武田義明教授）や杉田氏より寄贈された1960年代以降に調査された国内各地の植生調査資料をデジタル化、データベース化し過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上での公開も検討し、広く研究者、専門家が利用できるデータベースを目指す。
植物・植生映像資料データベースの充実化と有効活用	開館当初より収集し、データベース化している植物・植生映像資料を適正に保管すると及びに、映像資料の寄贈の受入や館員による収集映像の追加によりデータベースを充実化し、過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上での公開も検討し研究者、専門家だけでなく広く県民も利用できるデータベースを目指す。
ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援	深田公園の当館管理区域に位置する残存林及び人工林で現在行っている里山管理及び施設管理を継続し、兵庫方式の里山管理の見本林として整備する。また里山の代表的な植物を観察できる場所に整備する。 安全管理上の問題もあるため、完全一般公開とはせず、里山活動を行う市民団体や行政、企業向けのセミナーや学校団体等の環境体験学習等で活用する。
三田市南公園 まちなか里山保全プロジェクトの支援	三田市が策定した南公園の里山公園管理計画である「まちなか里山基本方針」の実現を支援するための、人材育成プログラムに対する講師派遣やコンテンツ提供、育成された人材で結成される活動団体への支援を行う。また整備された南公園を活用して、ひとはく独自の環境学習プログラムの実施（主に特注セミナー）を検討する。
生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用した生物多様性の普及・啓発、研究開発	平成23年度より実施している生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用して、生物多様性の主流化に資する研究会開発を行うと及びに、研究成果の公表、普及啓発活動を展開する。
山陰海岸における海浜植物・海浜植生の保全推進	山陰海岸に生育する海浜植物の保全に向け、野外調査、発芽試験、栽培試験等を行う。データは学会・論文での発表のほかセミナーや展示で活用する。
播磨灘沿岸における塩湿地植物・塩湿地植生の保全推進	播磨灘沿岸に生育する塩湿地植物の保全に向け、野外調査、発芽試験、栽培試験等を行う。データは学会・論文での発表のほかセミナーや展示で活用する。

名勝慶野松原における海浜植物・林床植生の保全推進	慶野松原（南あわじ市）の生物多様性保全に向け海浜植物のモニタリングや系統保存、域外保全個体群の遺伝的多様性の評価等を行う。
兵庫県における重要植物群落の現状把握と保全推進	兵庫県内の重要植物群落の現状を把握し、環境施策や森林整備事業の企画立案に必要な基礎資料の充実を図る。収集した植生写真や植生調査資料はセミナーや展示で活用する。
DNA を長期保管できる生物標本作成方法の開発	標本の多面的機能を創出する一環として、標本中では通常短期間で劣化する DNA 情報の長期保管するための技術開発を行う。
ジーンファームにおける生育域外保全植物の遺伝的多様性評価	ジーンファームで生育域外保全を実施している植物について、野生集団と比較してどの程度遺伝的多様性を保持しているかを解明する。
絶滅危惧種の植物や昆虫における遺伝情報の蓄積	絶滅危惧種や国内野生動植物に指定されている昆虫や植物について、生息域内や域外における保全活動を目的として遺伝情報を蓄積する。
絶滅危惧植物の遺伝資源サンプル収集	兵庫県に生育する絶滅危惧植物を中心に、遺伝解析用のサンプルを収集する。将来世代がこうした遺伝解析用サンプルを解析できるように、博物館における恒久的な収蔵を目指す。
「深田公園植物情報」展示等による演示プログラムの試行	4 階ひとはくサロンから見える範囲での植物を観察する場所やポイントなどの情報を 1～2 ケ月ごとに「深田公園植物情報」として内容を更新する（専用展示台によって、ひとはくサロンで展示）。また、深田公園を使って植物を対象とした演示プログラムを試行する。
年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト	年配者と一緒に地域の小学校や児童館などへ行って、自然や環境、生きものについてのプログラムを実施しながら、年配者と地域の子どもたちがコミュニケーションする仕組みを検討する。